

令和5年9月30日（通巻第222号）

# ボウルズ・ジャパン ブリテン

発行元：認定 NPO 法人ローンボウルズ日本 総務部

## 一般情報など

### （1）新入会員紹介

9月14日付けで村人クラブに廣重 達典 さん（60歳代）が入会されました。

## 2023年8月の行事、活動などの結果

### （1）BJ 臨時理事会開催

日時：9月30日（土）20：00～22：00

場所：ZoomによるWeb会議

参加者：2023/2024年度理事会メンバー（定数25名）のうち、出席理事13名、委任状提出理事5名、欠席理事7名にて議決は成立した。

議事：審議事項1 「選手選考委員会規程」について

審議結果：下記の文章修正を加えることで、本規程を承認し10月1日から施行することが出席者の過半数の多数決により決定された。ただし、今後の施行状況により不具合があると理事から指摘が出された場合は、随時に速やかに改訂を審議することとした。

文章修正（第4条第5項）；「日本代表選手の募集に応募し候補者になった場合は」を「日本代表選手の募集に応募した場合は」とする。

審議事項2 「2024年3月アジア選手権大会出場選手の選考基準」について

審議結果：④の文章から「将来性」の語句を削除することで、原案が承認・決定された。

報告事項1 2023年度選手選考委員（松原、Alex、廣内、松岡、小山、前林、合田）内部の互選により、委員長は廣内に、副委員長は松岡に決定したことが廣内委員から報告された。

々 2 BJ運営上のガバナンスに関して過去からの経過を監査した結果、重大な瑕疵は認められなかったこと、および今後の業務執行への要望として、より透明性、説明責任、結果重視を維持して運営されること、が依田監事から報告された。

黒沢理事から、理事会ではオブザーバーは求められたときだけ発言して欲しいとの補足があった。

々 3 2023年度ワールドボウルズ総会に出席した松岡理事から直近のWBの動向についての報告があった。

(2) World Bowls 主催の世界選手権大会終了

主管 : Bowls Australia

会場 : オーストラリア・ゴールドコーストの5会場

ブロードビーチ・クラブ、マーメイドビーチ・クラブ、クラブ・ヘレンスヴェイル  
マスグレイブヒル・クラブ、パラダイスポイント・クラブ

日程 : 8/29(火) から 9/10(日) までの2週間

結果 : あとの8ページから詳細記事あり

(3) Champion of Champions 大会

主催 : World Bowls 主管 : Bowls Australia

場所 : オーストラリア・ゴールドコースト・Robina Bowls Club

日時 : 9月12日(火) ~ 9月16日(土)

出場者 : 小山潤 (LC 京都)、松岡緑 (オーストラリア)

結果 : 小山選手 3勝4敗で予選セクション8名中の5位

松岡選手 3勝4敗で予選セクション8名中の5位

備考 : あとの18ページから小山選手、松岡選手の報告記事あり

(4) 男女フリートリプルズ日本選手権大会

主催 : BJ 技術・競技部 主管 : 関西 LB 協会

場所 : しわせの村ローンボウルズグリーン

日時 : 9月9日(土)、10日(日) 9時~17時

参加チーム数 : 8チーム

競技方式 : 予選ラウンドは4チームずつ2グループに分かれ、グループ内総当たり戦3ゲーム  
および別グループの1チーム(抽選で決定)との対戦の4ゲームを実施。

決勝ラウンドは予選グループの1,2位チームによる1~4位決定戦ならびに  
予選ラウンド3,4位チームによる5~8位決定戦を実施。

1ゲームはすべて一人3球×10エンド(85分の時間制限付き)戦。

結果 : 予選ラウンド

Gr	チーム記号	選手名(所属クラブ)	成績	順位
A	関東1位 A1	安藤英昭、津山元子、新井俊明(YC&AC)	2勝1分1敗	1
	関西1位 A2	山根英輝、大杉正樹、宮北茂(神戸ボウルズ)	1勝1分2敗	3
	関東3位 A3	松本幸雄、平井真理子、Eric Corson(LB 東京)	0勝4敗	4
	関西3位 A4	垣内紀子、小林綾子、西條和子(ALBC)	1勝2分1敗	2
B	前年優勝 B1	合田洋子、合田純二、森 紘一(学園ワイズ)	3勝1敗	2
	関東2位 B2	Hiroko 小島、Toshi 黒沢、伊藤重光(YC&AC)	1勝3敗	4
	関西2位 B3	吉中康子、小山裕木恵、田町智之(京都・甲南)	4勝0敗	1
	関西4位 B4	青木哲男、小野叶子、前林典子(神戸ボウルズ)	2勝2敗	3

決勝ラウンド

		成績	最終結果
1～4位 決定戦	準決勝	○B1 合田、合田、森 15:3 ×A1 安藤、津山、新井	優勝 B1
		○A4 垣内、小林、西條 8:3 ×B3 吉中、小山、田町	2位 A4
	3位決定	○B3 吉中、小山、田町 13:4 ×A1 安藤、津山、新井	3位 B3
	優勝決定	○B1 合田、合田、森 14:5 ×A4 垣内、小林、西條	4位 A1
5～8位 決定戦	準決勝	○A2 山根、大杉、宮北 17:4 ×B2 小島、黒沢、伊藤	5位 A2
		○B4 小野、青木、前林 11:7 ×A3 松本、平井、Eric	6位 B4
	7位決定	○A3 松本、平井、Eric 7:5 ×B2 小島、黒沢、伊藤	7位 A3
	5位決定	○A2 山根、大杉、宮北 8:3 ×B4 小野、青木、前林	8位 A2

\*優勝の合田・合田・森チームは2019、2022、2023年度の3連覇となる。

(2020、2021年度は新型コロナで中止)

(5) 明石公園ジュニア・ローンボウルズ教室(第11回目)を開講

日時: 9月24日(日) 9:30~12:00

場所: 明石公園ローンボウルズ場

実施内容: 9:30~12:00 実技練習

参加者: 受講生6名(高校生1名、中学生2名、小学生3名)、保護者1名

講師: 6名(森、藤川、長島、関口、奥田、小林)

内容: 座学 1. 本日の実技内容の概要説明と組分け

2. 8月12日(土)の第2回関西地区U-25選手権大会の結果報告  
および来年度は受講生全員が出場を目標とすることの宣言

実技 1. 準備体操

2. ジャックの投球 一人2球(ショート&ロング) 1往復

3. 40ボウルズ 一人4球(ショート2球&ロング2球)

フォアハンド1往復、バックハンド1往復

CDをマット前方4mほどの位置に置き、CD上を  
通過することを目標とする。

4. エリミネーター ミドル距離、ジャックの周囲に半径1mの円を描き  
この中にボウルを止めることを狙う。3人1組で交代に1球ずつ  
投球し、一人4球を投げる。CDはなし。

各人が自分でCDに代わる目標を見つけさせる。ハンドはフォアでもバックでもよい。ボウルが1mの円の外に止まった場合はそのボウルを除去し、ボウルが残った者が1名になったら  
終わりとする。

5. トリプルズ戦 一人3球×3エンドを実施

Aチーム: 井藤、長井、宮崎、Bチーム: 桑原、池田、池田

(6) Aリーグカップ 2023 年後期大会 (第 5, 6 節)

主催：関西ローンボウルズ協会  
 主管：Aリーグ実行委員会  
 場所：明石公園ローンボウルズグリーン  
 日時：9月3日(日)、17日(日) 9:00~12:00  
 結果：9月3日は中止、第6節終了後の成績。

	A-1 リーグ		A-2 リーグ	
1 位	西條和子 (ALBC)	62 点	野上哲男 (タッチャーズ)	57 点
2 位	森 紘一 (学園ワイズ)	54 点	垣内紀子 (ALBC) 奥谷和子 (ALBC)	54 点
3 位	長島俊和 (ALBC)	53 点	浜田ひろみ (ALBC)	51 点

(7) Mリーグ 2023 年度前期大会 全日程終了最終結果

主催：関西 LB 協会 主管：Mリーグ実行委員会  
 場所：神戸市しあわせの村ローンボウルズグリーン  
 日時：9月13日(水)、27日(水) 9:00~12:00  
 競技結果：9月27日以前で前期全日程終了最終結果 (出席率 70% 以上が対象)

順位	氏 名	平均ポイント	ポイント合計	出場試合数
1 位	宮崎宗久 (神戸タッチャーズ)	6.176	105.0	17
2 位	坂本紘一 (神戸タッチャーズ)	5.929	83.0	14
3 位	藤川辰美 (神戸学園ワイズ)	5.800	87.0	15

(8) 関西地区初級者ローンボウルズ大会

主催：関西ローンボウルズ協会 サポートクラブ：神戸タッチャーズ、学園ワイズ  
 場所：しあわせの村ローンボウルズグリーン 日時：9月3日(日) 9時~17時  
 参加チーム数：6チーム  
 競技内容：予選ラウンドは、6チームを抽選により A, B の 2 グループに分け、1チームあたり 2 ゲームを実施して、その結果でグループ内の 1 位~3 位を決定する。  
 決勝プレーオフは、A, B 両グループの 1 位同士、2 位同士、3 位同士の対戦で最終順位を決定する。  
 1 ゲームはいずれも一人 3 球×8 エンド (60 分の時間制限あり) で実施。

競技結果：予選ラウンド

Δ = 得失点差

Gr.	記号	選手名 (所属クラブ)	成績	順位
A	A1	廣重達典、河本等 (KSC)	1 勝 1 敗、Δ = 2	3
	A2	木村和暉、中田照男 (車いす・タッチャーズ)	2 勝 0 敗	1
	A3	児玉智子、坂本紘一 (タッチャーズ)	1 勝 1 敗、Δ = 11	2

B	B1	村上繁博、横井幸雄 (タッチャーズ)	1勝1敗、 $\Delta = -2$	1
	B2	田中真理子、上田ひとみ (学園ワイス)	1勝1敗、 $\Delta = -11$	2
	B3	松本節子、松本道徳(兵庫車いす)	0勝2敗	3

決勝プレーオフ

区分	結果成績	備考
1, 2位決定戦	○B1 村上、横井 12:3 ×A2 木村、中田	
3, 4位決定戦	○A3 児玉、坂本 15:2 ×B2 田中、上田	
5, 6位決定戦	○A1 廣重、河本 7:7 ×B3 松本、松本	獲得ポイント数で決定

(9) 女子ペアーズ日本選手権大会結果

主催：認定NPO法人ローンボウルズ日本

主管：BJ技術・競技部

運営：関東LB協会横浜地区クラブ

場所：YC&AC ローンボウルズグリーン

日時：9月23日(土曜)9時30分～15時、9月24日(日曜)9時30分～16時

参加チーム数：8チーム

競技方式：一人3球×10エンド(80分の時間制限付き)

予選ラウンド：4チームずつ2グループに分かれ、総当たり3試合と、別グループのチームと1試合、計4試合を実施し、グループ内での順位付けを行った

決勝ラウンド：各グループ1位～2位の4チームで準決勝戦・決勝戦、3位～4位の4チームでコンソレーション準決勝戦・決勝戦(5位、7位決定戦)を実施した

試合結果：

順位	クラブ名	選手名	予選 R	決勝 R1	決勝 R2
1位	東京 LBC	小林麻衣子、高山紗生	A-2位	9-5	10-9
2位	LC 京都・神戸ワイルズ	小山裕木恵、前林典子	A-1位	8-6	9-10
3位	YC&AC	Yuko Sasaki、Yoko Ishiguro	B-2位	6-8	12-7
4位	LC 京都	島美里、阿比留さゆり	B-1位	5-9	7-12
5位	神戸タッチャーズ・車いす	野上京子、八杉瞳	A-3位	8-7	8-6
6位	神戸ボウルズ	横井浩子、小野叶子	B-3位	6-5	6-8
7位	神戸タッチャーズ	井上千加子、児玉智子	B-4位	7-8	10-5
8位	LC 京都	吉中康子、田中まち子	A-4位	5-6	5-10



#### 2023年10月,11月の計画、予定

- (1) BJ 理事連絡会 (Zoom Web 会議) 令和 5 年度 (第 5、6 回) 開催

日時：10月28日(土)、11月25日(土) 20:00~21:30

場所：Zoom による Web 会議

参加者：2023/2024 年度理事会メンバー、オブザーバーも歓迎

内容：追って連絡

- (2) アジア・パラ競技大会開催 (世界の 45 か国が参加)

主催：アジア・パラ競技大会実行委員会

後援：IBD (国際障がい者ローンボウルズ連盟)

助成：日本パラスポーツ協会

場所：中国浙江省

日時：10月22日(日)~10月28日(土)

日本選手団：選手 260 名、役員等 170 名 総勢 430 名で 20 競技に出場

BJ からの出場者：ローンボウルズ競技の男女シングルス種目およびミックスペアーズ種目に出場。

選手 児島久雄、松本節子 (兵庫車いすクラブ)

マネジャー 廣内鐵也 (LC 京都)

サポーター 松本道德 (兵庫車いすクラブ)

会場：杭州市ローンボウルズ競技場 (屋外 8 リンク人工芝グリーン 2 面)

(3) 男女フリーフォアーズ日本選手権大会

主催：BJ 技術・競技部

主管：関東 LB 協会

場所：立川市昭和記念公園ローンボウルズグリーン

日時：10月7日（土）、8日（日） 9時～17時

(4) 全日本障がい者選手権大会

主催：BJ 障がい者 LB 部

主管：兵庫車いすクラブ

場所：しあわせの村ローンボウルズグリーン

日時：10月8日（日） 9時～17時

(5) 女子シングルス日本選手権大会

主催：BJ 技術・競技部

主管：関東 LB 協会

場所：YC&AC ローンボウルズグリーン

日時：10月21日（土）、22日（日） 9時～17時

(6) 関西地区 マーカー・メジャリング講習会開催

主催：BJ 技術・競技部

場所：しあわせの村ひよどり研修室（座学）およびローンボウルズグリーン（実技）

日時：10月9日（月・祝） 9:00～13:00

受講対象者：BJ 公認アンパイア資格の取得を希望する方、既資格保有者で資格の更新を必要とする方、その他 勉強だけしたい方等々

講師：廣内、船引、坂本、藤川

(7) 2023 年度秋季神戸市長賞大会

主催：関西 LB 協会

サポートクラブ：学園ワイズ、タッチャーズ、村人クラブ

場所：しあわせの村ローンボウルズグリーン

日時：10月29日（日） 9時～17時

(8) A リーグカップ 2023 年後期大会(第 7, 8, 9, 10 節)

主催：関西ローンボウルズ協会                      主管：A リーグ実行委員会

場所：明石公園ローンボウルズグリーン

日時：10月1日（日）、15（日）、11月12日（日）、19日（日） 13:00～16:00

参加申込み：誰でも参加できます。参加希望者は当日 30 分前までに来場し受付に申出る。

(9) SV リーグ 2023 年度 後期大会(第 1, 2, 3, 4 節)

主催：関西 LB 協会

主管：SV リーグ実行委員会

ALBC (統括)、村人クラブ (会計)、学園ワイズ (記録)

場所：神戸市しあわせの村ローンボウルズグリーン

日時：10月7日(土)、21日(土) 11月11日(土)、11月25日(土)

10月からは13:00~16:00(12時45分までに受付完了のこと)

競技内容：10チームが参加し、ペアーズ戦を2ゲーム行う。

(10) Mリーグ 2023 年度 後期大会 (第 1, 2 節)

主催：関西 LB 協会 主管：M リーグ実行委員会

場所：神戸市しあわせの村ローンボウルズグリーン

日時：10月11日(水)、28日(土)

10月からは13:00~16:00(12時45分までに受付完了のこと)

競技内容：チーム編成は当日の抽選にて決定。参加人数によりペアーズ、トリプルズ、  
フォアーズ戦を行う。8エンド戦を2ゲーム行う。

参加申込み：事前申込みは不要。当日、会場への来場で可。チーム編成は当日の抽選にて決定。

(11) 明石公園ジュニア・ローンボウルズ教室 (第 12 回、13 回) を開講予定

日時：10月22日(日)、11月19日(日)、9:30~12:00

場所：明石公園ローンボウルズ場

実施内容：9:30~10:00 座学、10:00~12:00 実技

(12) 「垂水区民スポーツの日」イベントへの参加

主催：垂水区役所 協力：関西ローンボウルズ協会 他

場所：垂水スポーツガーデン 神戸市垂水区平磯1丁目1-5

日時：10月14日(土) 10:00~15:00

内容：ローンボウルズ体験会を開催する(13時~15時 テニスコート場)

(13) 明石市中央体育館インドアマット交流大会(2023年度秋季)

主催：明石市ローンボウルズ協会

場所：明石市中央体育会館第1競技場(2リンク)

日時：11月13日(月) 9:00~17:00

参加募集人員：トリプルズ 6チーム(18人) 一人3球X8エンド戦を4ゲーム実施

参加費：一人500円(当日受付)

8月29日から9月10日までゴールドコーストで行われた2023年世界選手権を終えて出場したプレイヤーからのアンケート調査の結果を下のレポートにまとめた。競技結果詳細はパラに同行した森 紘一氏からの報告書にあるので、ここでは各個人のレポートのまとめとする。個人で4項目（準備、パフォーマンス、体調、チームワーク）を5段階で自己評価し、その理由また今後にどのように生かすかを質問した。なおこれは同年2月マレーシアで行われたアジア大会の時と同じ項目で質問している。

参加者は、

男子：長谷部健太（オーストラリア、シドニー在住）江村健一（オーストラリア、ツイードヘッド在住）佐藤寿治（オーストラリア、シドニー在住）大平貴士（オーストラリア、メルボルン在住）廣内鐵也（日本、京都在住）

女子：松岡緑（オーストラリア、シドニー在住）江村裕子（オーストラリア、ツイードヘッド在住）佐藤正子（オーストラリア、シドニー在住）黒原恵子（ニュージーランド、オークランド在住）阿比留さゆり（日本、京都在住）

総合評価						女子						男子	合計
準備	5	4	3	5	3	4	5	4	5	4	2	4	4
パフォーマンス	4	4	2	4	2	3.2	4	3	3	5	2.5	3.5	3.4
体調	5	2	4	4	4	3.8	4	4	4	4	4	4	3.9
種目別チームワーク	3	4	4	4	4	3.8	5	4	4	4	4	4.2	4
全体チームワーク	5	4	4	5	4	4.4	5	4	4	4	4	4.2	4.3

### 1. 大会に向けての準備は十分だったか。

おおむね準備は十分としており、各自自分のクラブで世界大会に標準を合わせた練習をかなり行なってきた。参加者は居住場所が異なっているために、事前キャンプなどもなく、自分たちで独自に練習をしていた。

練習量には海外組と日本からのプレイヤーではかなり差があり、それが結果に反映することになった。

### 2. 自分のパフォーマンスはどうだったか？

全体的にやや満足に振れているが、女子の方が男子に比べてやや低い。

準備との関連性が高く、満足のいく準備ができなかった人がやはりパフォーマンスに現れている。また天然芝グリーンは試合をしている間にも刻々と状況が変わり、それに対応できずに終わってしまった場合も多く見られる。

### 3. 体調はどうだったか？

1名（腰痛）を除き皆体調はすぐれており、管理は行き届いていたと思われる。

#### 4. チームワーク（種目別および全体）

チームワークは今までに無く、よかった。事前練習も3日以上あったのでその間チームを構築したり、一緒に生活することでチームらしきものはできた。

また、男子トリプルズ、女子トリプルズ、フォーズのバックエンドは何度も一緒にプレイしているチームであり、お互いのショットの特性などもわかっているためにチームプレイがやりやすかったと思われる。

#### 5. 今後に向けての課題

技術面：

- ウェイトコントロールに重点を置き練習に励む
- ショットの安定性

女子シングルスとペアのコーチがデータを取ってくれていたが、ショットが安定せずヘッドが作れなかったり、取れるべき点を取り逃がしたりする場面が多く見られた。最低でもジャックの半径60センチ以内に50%のショットが入るように技術を高め安定させる必要がある。

- 違った場所、違ったコンディションでいかに早く対応するかを学ぶ

特に、グリーンの速さは12-16秒と場所、グリーンあるいは時間によって変化が激しく、すぐに対応しなければならない場合が多かったが、これはどの試合でも同じことなので、大きく課題としてあげられる。例：朝の開始時は朝露でグリーンが重たく、しばらくするとだんだん速くなっていく。昼になると乾いてもっと早くなり、午後になると風が強くなってきて1球1球ラインとウェイトを確認しないといけなくなる。午後3時30分以降になると、だんだんグリーンが遅くなっていく。木の影や、建物の影になる場所はスピードがやや遅くなる。

チーム作り：

- チームとしてプレイする機会がないままに試合に臨むのではなく、事前にチームを作り上げてから試合に臨む

これは、事前キャンプの必要性になり、資金面での問題が大きく難しいけれども今後は課題としてあげられる。

サポート面：

- コーチの必要性

試合中では、技術面（ショットセレクション、相手やチームの状態素早くみきわめる）精神面でのサポートのためにコーチは必須。

今回は知り合いのコーチにボランティアをお願いして、上記の部分、データ分析などかなり貢献してもらったものの、今後は日本チーム全体の専属コーチが欲しい。

また、コーチがいれば練習の質が上がり、トレーニングしながらチーム強化

もやりやすくなると思う。

- 若手の参加

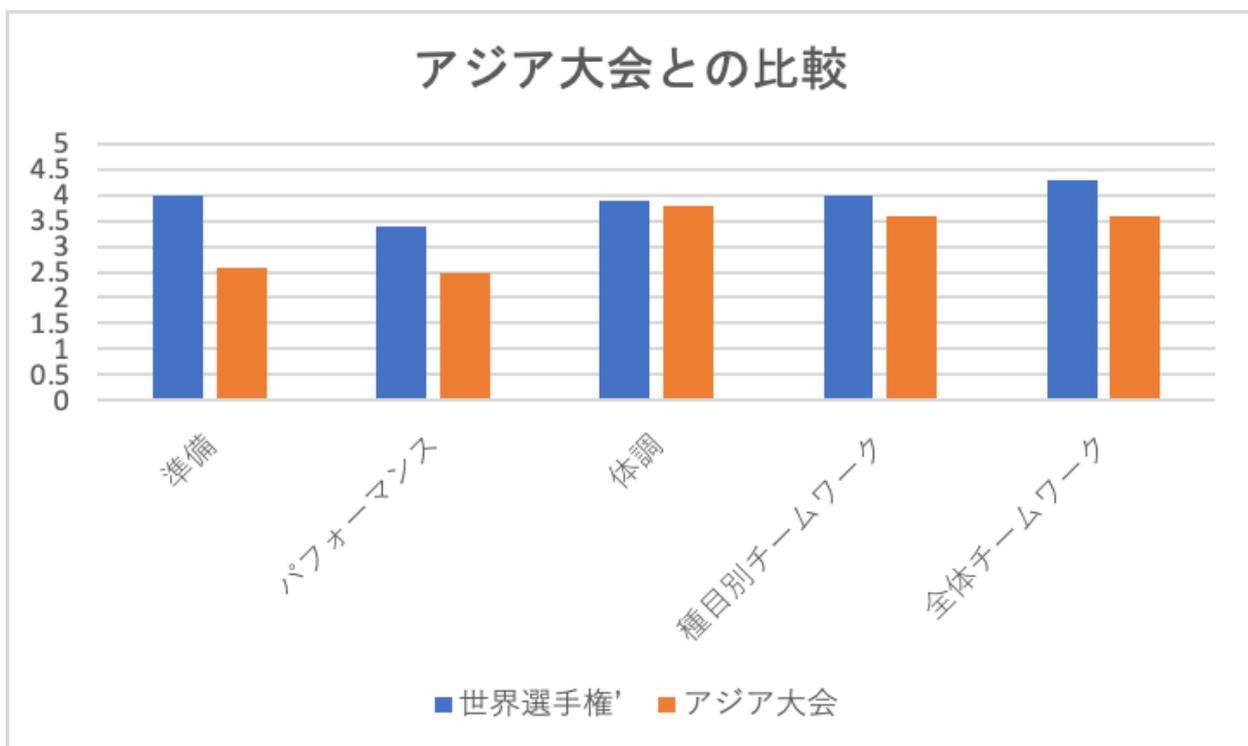
将来を見て、チームに若手を参加させて今後に発展させるといいと思うがやはり、そのためには資金・コーチなどのバックアップが必要。

## 6. 2023年2月のアジア大会からの進歩

最後に、2月のアジア大会の時の自己評価との比較をしてみると、全ての項目で評価が上がっている。

特に準備とパフォーマンスでは顕著に改善が見られる。

参加者は10名中8名が同じ人であり、その人がアジア大会に比べて準備も入念に行い、結果としてパフォーマンスにも現れたことを示している。



**世界選手権大会競技結果の詳細報告** 森 紘一（障がい者チーム帯同スタッフとして大会参加）

(1) 総括

- \* World Bowls 主催の世界選手権大会は、新型コロナによる中断以前は、4年周期の開催でかつ本戦大会の前に予選大会がある（日本の場合は、アジア太平洋地区選手権大会で12位以内に入ることによって世界大会への出場権が得られた）という方式であったが、これがコロナ以降は2年周期となり、かつ予選が無しとなりどこの国もエントリーさえすればいきなり本戦大会に出場できるように変更になった。今回がその初回ということで過去最大の世界44か国からのエントリーがあるという盛大な大会となった。従って、今回の大会では日本にはなじみの少ない国の選手とも対戦できた貴重な大会でもあった。
- \* 日本チームは、メダル獲得を1つの目標としていたが結果的には残念ながらゼロに終わった。男子トリプルズが、メダル獲得寸前まで行ったが、最終エンドで相手チームに逆転されてメダル獲得を逃した。このゲームの、エンドごとのスコアの推移の資料は後のページに示す。
- \* 日本チームを総括的に見ると、長谷部健太選手（オーストラリアクラブ）が出場した上記の男子トリプルズおよび男子シングルの2種目についてのみは決勝トーナメントに進出しメダル争いに関与できる可能性があったが、それ以外の種目については良くて予選セッションの中位ないし多くは下位レベルの結果となり、新規参加国が多かった中で世界の壁の高さを痛感せざるを得なかった。特に今回は、世界大会レベルの大会に初出場となる選手が男子で2名、女子で1名あったが、それらの選手が出場した種目はほとんど最下位であった。大きな大会への出場経験を積ませることの重要性が再認識された。
- \* 障がい者男子ペアーズチームは、これまでアジア圏内の大会では入賞の実績はあったが今回初めて欧米のチームと対戦することとなり、善戦はしたが結果的には予選セッションで最下位であった。銀メダルを獲得した南アフリカチームと予選セッションで対戦したゲームのエンドごとのスコアの推移の資料をこれも後のページに示す。
- \* 最終的にメダル獲得国は下表のとおりであり、強豪国とはこれらである事がわかる。またこれらの強豪国を除いて決勝ラウンドに進出した国は下表（ベスト8）であり、アジア圏でベスト8以内に入ったのは、マレーシア、香港、インド、タイ、スリランカ、日本の6か国のみである。今回フィリッピン、シンガポール、マカオはベスト8には入れなかった。
- \* 今後としては、まずアジア圏でこれらの国より上位に立つことを目標とすべきと考える。

	女シングル	女ペアズ	女トリプル	女フォアズ	男シングル	男ペアズ	男トリプル	男フォアズ
金メダル	ニュージー	マレーシア	オーストラリア	イングランド	カナダ	アイルランド	オーストラリア	オーストラリア
銀メダル	カナダ	マルタ	ニュージー	オーストラリア	アイルランド	オーストラリア	スコットランド	スコットランド
銅メダル	オーストラリア イングランド	スコットランド イングランド	アイルランド カナダ	スコットランド ニュージー	オーストラリア スコットランド	マレーシア カナダ	アイルランド イングランド	アイルランド ニュージー
ベスト8	南アフリカ、スイス、スリランカ、香港、ウェールズ、ノーフォークアイランド、インド、クックアイランド、米国、日本、タイ							

(2) 種目別の成績結果

- \* 対戦結果成績表の見方；縦方向に見て下さい。
- \* 順位の付け方：第1基準は勝ち点（1勝で3点、引分けで1点）合計の高い方が上位  
第2基準は、勝ち点が同点の場合は得失点差の高い方が上位

男子シングルス 予選セクション2

出場：長谷部健太選手（オーストラリア・クラブ）

	イングランド	カナダ	日本	南アフリカ	シंगाポール	ジンバブエ	ボツナ	パプア	スウェーデン	キプロス	スリランカ
イングランド		×17:21	×8:21	×14:21	×10:21	×7:21	×3:21	×14:21	×11:21	×8:21	×8:21
カナダ	○21:17		×13:21	×17:21	×9:21	×9:21	×5:21	×14:21	×6:21	×3:21	×2:21
日本	○21:8	○21:13		×14:21	×8:21	×10:21	×18:21	×6:21	×4:21	×11:21	×7:21
南アフリカ	○21:14	○21:17	○21:14		×14:21	×13:21	×16:21	×7:21	×12:21	×12:21	×5:21
シंगाポール	○21:10	○21:9	○21:8	○21:14		×9:21	×11:21	×19:21	×12:21	×18:21	×14:21
ジンバブエ	○21:7	○21:9	○21:10	○21:13	○21:9		×19:21	×10:21	×16:21	×16:21	×12:21
ボツナ	○21:3	○21:5	○21:18	○21:16	○21:11	○21:19		×11:21	×7:21	×13:21	×6:21
パプア	○21:14	○21:14	○21:6	○21:7	○21:19	○21:10	○21:11		×20:21	×16:21	×13:21
スウェーデン	○21:11	○21:6	○21:4	○21:12	○21:12	○21:16	○21:7	○21:20		×18:21	×8:21
キプロス	○21:8	○21:3	○21:11	○21:12	○21:18	○21:16	○21:13	○21:16	○21:18		×12:21
スリランカ	○21:8	○21:2	○21:7	○21:5	○21:14	○21:12	○21:6	○21:13	○21:8	○21:12	
勝ち点	30	27	24	21	18	15	12	9	6	3	0
総得点											
総失点											
得失点差											
順位	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	9位	10位	11位

\*金メダルのカナダ、強豪国のイングランドが居るセクションの中で3位となり、決勝進出を逃した。

男子ペアーズ 予選セクション3

出場：リード大平貴士選手（オーストラリア・クラブ）、スキップ廣内鐵也選手（LC 京都）

	カナダ	ニュージーランド	イングランド	タイ	オランダ	トルコ	フィジー	ナムビア	日本
カナダ		△16:18	△17:17	×13:18	×7:29	×6:32	×11:14	×16:24	×9:32
ニュージーランド	△16:16		×9:17	○18:12	×14:18	×5:32	×8:23	×10:28	×10:23
イングランド	△17:17	○17:9		×10:20	×8:30	×10:25	×14:21	×10:25	×8:20
タイ	○18:13	×12:18	○20:10		×10:26	×7:21	×11:31	×15:24	×5:25
オランダ	○29:7	○18:14	○30:8	○26:10		×14:22	○27:8	×13:17	×10:33
トルコ	○32:6	○32:5	○25:10	○21:7	○22:14		×10:15	×16:20	×14:19
フィジー	○14:11	○23:8	○21:14	○31:11	×8:27	○15:10		○16:15	×8:29
ナムビア	○24:16	○28:10	○25:10	○24:15	○17:13	○20:16	×15:16		×11:20
日本	○32:9	○23:10	○20:8	○25:5	○33:10	○19:14	○29:8	○20:11	
勝ち点	20	19	19	18	9	9	4	4	0
総得点		169	167		119	100	129	116	
総失点		90	94		167	182	123	164	
得失点差		79	73		-48	-82	-6	-48	
順位	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	9位

男子トリブルズ 予選セクション4

出場：リード佐藤（寿）選手（オーストラリア・クラブ）、セカンド江村（健）選手（オーストラリア・クラブ）  
スキップ長谷部健太選手（オーストラリア・クラブ）

	スコットランド <sup>o</sup>	日本	ウェールズ <sup>o</sup>	クックアイランド <sup>o</sup>	マルタ	フィリピン	マカオ	ニウエ
スコットランド <sup>o</sup>		×13 : 14	×11 : 19	△15 : 15	×11 : 21	×13 : 20	×10 : 22	×2 : 48
日本	○14 : 13		×12 : 18	×15 : 20	○20 : 17	×15 : 19	×5 : 33	×4 : 35
ウェールズ <sup>o</sup>	○19 : 11	○18 : 12		△16 : 16	×11 : 31	×15 : 17	×9 : 25	×6 : 36
クックアイランド <sup>o</sup>	△15 : 15	○20 : 15	△16 : 16		×13 : 19	○18 : 10	×8 : 27	×7 : 21
マルタ	○21 : 11	×17 : 20	○31 : 11	○19 : 13		○15 : 13	×12 : 17	×11 : 21
フィリピン	○20 : 13	○19 : 15	○17 : 15	×10 : 18	×13 : 15		○15 : 11	○29 : 17
マカオ	○22 : 10	○33 : 5	○25 : 9	○27 : 8	○17 : 12	×11 : 15		×7 : 23
ニウエ	○48 : 2	○35 : 4	○36 : 6	○21 : 7	○21 : 11	×17 : 29	○23 : 7	
勝ち点	19	15	13	11	9	6	6	3
総得点						104	82	
総失点						123	142	
得失点差						-19	-60	
順位	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位

\*予選セクション2位で決勝ラウンドに進出。決勝ラウンドの準々決勝でイングランドに惜敗しメダル獲得を逃がした（下のグラフを参照）。

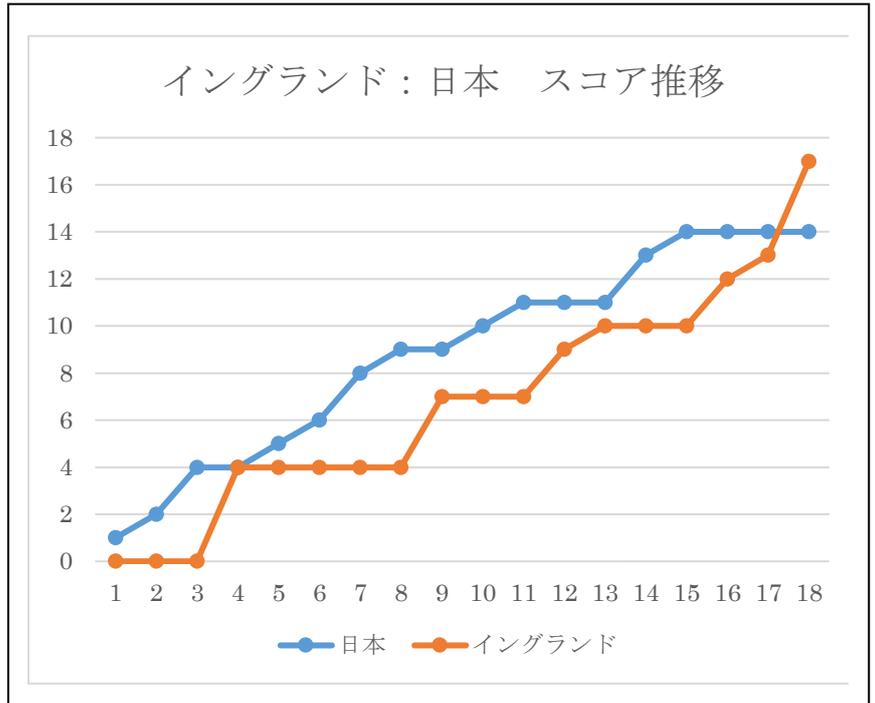
横軸がエンド数で、縦軸が累積ショット数である。ゲーム開始からずっと日本がクックアイランドをリードしていたが、15エンド目で日本14 : 10クックアイランドとなり残り3エンドとなった所で、日本のリード、セカンドが「勝ち」を意識したのかドロ精度が悪くなって相手に先手を取られるようになった。

16エンドで2点、17エンドで1点を相手に取られ、リード1点のみで最終18エンドを迎えて、ここでも相手のリードに先に第1球を30cmほどに付けられた。日本のリード、セカンドが何とか逆転をと試みたが結果的には2ショットダウンでスキップに引き継いだ。

ここで、スキップにはドローかドライブかの2つの重大な選択肢があった。種々の可能性を熟慮してスキップが確率が高いとして選択したのはドライブであった。

2球続けたこれがわずか1mmの差で外れ、逆に味方のNo.3を飛ばしてしまい大逆転負けとなってしまった。

この勝負に勝っておれば少なくとも銅メダルは確定であったので、まさに勝利の女神に見放された悲劇の逆転負けであったと言わざるを得ない。



男子フォアーズ 予選セクション2

出場：リード大平貴士選（オーストラリア・クラブ）、セカンド廣内鐵也選手（LC 京都）、サード佐藤(寿)選手（オーストラリア・クラブ）、スキップ江村(健)選手（オーストラリア・クラブ）

	オーストラリア	ウェールズ	ナムビア	マレーシア	マルタ	ノーフォーク	フィリピン	パプア	日本
オーストラリア		×14 : 16	×4 : 21	×14 : 16	×5 : 21	×9 : 11	×5 : 22	×6 : 35	×8 : 23
ウェールズ	○16 : 14		△12 : 12	×12 : 13	×6 : 18	×13 : 23	×8 : 13	×8 : 21	×8 : 26
ナムビア	○21 : 4	△12 : 12		×11 : 13	×9 : 16	○18 : 13	○14 : 9	×11 : 14	×12 : 22
マレーシア	○16 : 14	○13 : 12	○13 : 11		○13 : 11	×11 : 15	×9 : 15	×8 : 16	×5 : 21
マルタ	○21 : 5	○18 : 6	○16 : 9	×11 : 13		○20 : 6	×14 : 19	×10 : 13	×14 : 16
ノーフォーク	○11 : 9	○23 : 13	×13 : 18	○15 : 11	×6 : 20		○15 : 8	○18 : 8	×4 : 16
フィリピン	○22 : 5	○13 : 8	×9 : 14	○15 : 9	○19 : 14	×8 : 15		×7 : 14	○15 : 10
パプア	○35 : 6	○21 : 8	○14 : 11	○16 : 8	○13 : 10	×8 : 18	○14 : 7		×11 : 15
日本	○23 : 8	○26 : 8	○22 : 12	○21 : 5	○16 : 14	○16 : 4	×10 : 15	○15 : 11	
勝ち点	24	19	13	12	12	9	9	6	3
総得点				115	87	103	89		
総失点				88	124	105	108		
得失点差				+27	-37	-2	-19		
順位	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	9位

女子シングルス 予選ラウンド4 出場：黒原恵子選手（オーストラリア・クラブ）

	ニュージーランド	スイス	米国	日本	マレーシア	シガポール	ニウエ	マカオ	サモア
ニュージーランド		×18 : 21	×15 : 21	×11 : 21	×15 : 21	×1 : 21	×7 : 21	×7 : 19	×8 : 21

スイス	○21 : 18		×18 : 21	×10 : 21	×15 : 21	×14 : 21	×7 : 21	×11 : 21	×9 : 21
米国	○21 : 15	○21 : 18		×17 : 21	×12 : 21	×13 : 21	×13 : 21	×8 : 21	×3 : 21
日本	○21 : 11	○21 : 10	○21 : 17		○21 : 20	×17 : 21	×12 : 21	×10 : 21	×3 : 21
マレーシア	○21 : 15	○21 : 15	○21 : 12	×20 : 21		○21 : 15	×13 : 21	×8 : 21	×1 : 21
シンガポール	○21 : 1	○21 : 14	○21 : 13	○21 : 17	×15 : 21		○21 : 12	×15 : 21	×5 : 21
ニウエ	○21 : 7	○21 : 7	○21 : 13	○21 : 12	○21 : 13	×12 : 21		×17 : 18	×7 : 21
マカオ	○19 : 7	○21 : 11	○21 : 8	○21 : 10	○21 : 8	○21 : 15	○18 : 17		×4 : 21
サモア	○21 : 8	○21 : 9	○21 : 3	○21 : 8	○21 : 1	○21 : 5	○21 : 7	○21 : 4	
勝ち点	24	21	18	12	12	9	9	6	3
総得点				132	126	120	112		
総失点				110	105	119	120		
得失点差				+22	+21	+1	-8		
順位	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	9位

\* 4勝4敗で9チーム中の4位となり、アジア圏のマレーシア、シンガポール、マカオよりも上位となり善戦したが、決勝トーナメント進出には届かなかった。

#### 女子ペアーズ 予選セクション4

出場：リード阿比留さゆり選手（LC京都）、スキップ黒原恵子選手（オーストラリア・クラブ）

	イングランド*	マルタ	オーストラリア	ジンバブエ	香港	フィジー	オランダ*	スイス	日本
イングランド*		×13 : 17	×12 : 17	×7 : 31	×9 : 17	×8 : 15	×5 : 30	○13 : 12	×9 : 21
マルタ	○17 : 13		×10 : 19	△18 : 18	×10 : 22	×10 : 21	×10 : 28	×15 : 18	×8 : 28
オーストラリア	○17 : 12	○19 : 10		×7 : 30	×15 : 17	×5 : 29	×6 : 30	×16 : 18	×7 : 23
ジンバブエ	○31 : 7	△18 : 18	○30 : 7		×12 : 15	×16 : 19	×22 : 16	×15 : 17	×14 : 17
香港	○17 : 9	○22 : 10	○17 : 15	○15 : 12		×7 : 26	×11 : 21	×13 : 20	○15 : 10
フィジー	○15 : 8	○21 : 10	○29 : 5	○19 : 16	○26 : 7		×20 : 21	×13 : 18	×10 : 21
オランダ*	○30 : 5	○28 : 10	○30 : 6	×16 : 22	○21 : 11	○21 : 20		×8 : 14	×11 : 20
スイス	×12 : 13	○18 : 15	○18 : 16	○17 : 15	○20 : 13	○18 : 13	○14 : 8		△16 : 16
日本	○21 : 9	○28 : 8	○23 : 7	○17 : 14	×10 : 15	○21 : 10	○20 : 11	△16 : 16	
勝ち点	21	19	18	13	9	9	6	4	4
総得点					123	106		109	90
総失点					117	153		133	156
得失点差					+6	-47		-34	-66
順位	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	9位

#### 女子トリプルズ 予選セクション2

出場：リード佐藤正子選手（オーストラリア・クラブ）、セカンド松岡 緑選手（オーストラリア・クラブ）  
スキップ江村裕子選手（オーストラリア・クラブ）

	ニュージーランド*	カナダ*	ジャージー*	ウェールズ*	クックアイランド*	日本	ジンバブエ	スイス
ニュージーランド*		×10 : 21	×14 : 25	×12 : 22	×8 : 20	×17 : 21	×12 : 21	×6 : 29
カナダ*	○21 : 10		×10 : 17	×11 : 16	×15 : 25	×12 : 16	△16 : 16	×6 : 38
ジャージー*	○25 : 14	○17 : 10		○19 : 6	×8 : 18	×6 : 24	×16 : 20	×8 : 18
ウェールズ*	○22 : 12	○16 : 11	×6 : 19		○14 : 12	△15 : 15	×9 : 21	×12 : 28
クックアイランド*	○20 : 8	○25 : 15	○18 : 8	×12 : 14		△15 : 15	×7 : 26	×9 : 23
日本	○21 : 17	○16 : 12	○24 : 6	△15 : 15	△15 : 15		△14 : 14	×12 : 23
ジンバブエ	○21 : 12	△16 : 16	○20 : 16	○21 : 9	○26 : 7	△14 : 14		×9 : 27
スイス	○29 : 6	○38 : 6	○18 : 8	○28 : 12	○23 : 9	○23 : 12	○27 : 9	
勝ち点	21	16	13	10	10	6	5	0
総得点				118	109			
総失点				94	106			
得失点差				24	3			
順位	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位

\* 引分けが3ゲームもあり、上位のニュージーランド、カナダとも接戦であり、いまひとつ調子が良ければ上位に食い込めたところではあった。

#### 女子フォアーズ 予選セクション3

出場：リード佐藤正子選手（オーストラリア・クラブ）、セカンド阿比留さゆり選手（LC 京都）

サード松岡 緑選手（オーストラリア・クラブ）。スキップ江村裕子選手（オーストラリア・クラブ）

	ニュージーランド*	ウェールズ*	マルタ	日本	ニウエ	アルゼンチン
ニュージーランド*		×10 : 17	×10 : 16	×14 : 19	×7 : 21	×9 : 20
ウェールズ*	○17 : 10		○14 : 13	×13 : 17	×8 : 19	×5 : 20
マルタ	○16 : 10	×13 : 14		×8 : 20	×15 : 16	○11 : 9
日本	○19 : 14	○17 : 13	○20 : 8		×6 : 15	×14 : 19
ニウエ	○21 : 7	○19 : 8	○16 : 15	○15 : 6		×10 : 17
アルゼンチン	○20 : 9	○20 : 5	×9 : 11	○19 : 14	○17 : 10	
勝ち点	15	9	9	6	3	3
総得点		79	69		53	49
総失点		52	63		81	85
得失点差		+22	+6		-28	-36
順位	1位	2位	3位	4位	5位	6位

#### 障がい者男子ペアーズ 予選セクション2

出場：リード溝口満輝選手（兵庫車いすクラブ）、スキップ児島久雄選手（兵庫車いすクラブ）

	南アフリカ	シガポール	スコットランド*	ニュージーランド*	韓国	日本
南アフリカ		×10 : 18	×13 : 17	×15 : 19	×15 : 16	×10 : 15

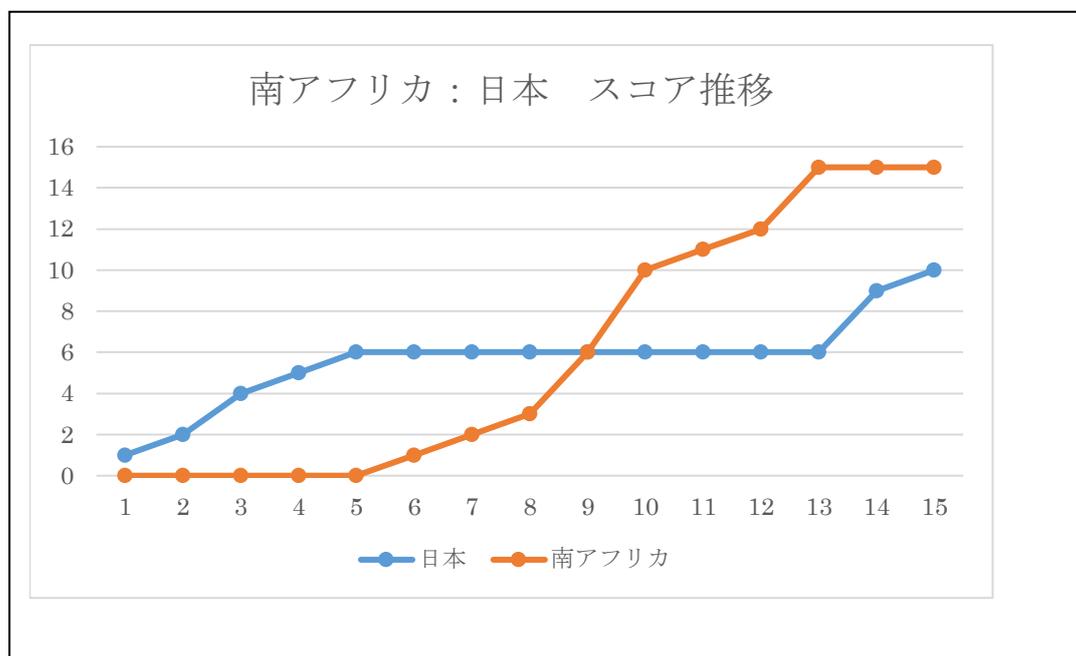
シンガポール	○18 : 10		×7 : 16	○19 : 12	×4 : 18	×4 : 13
スコットランド	○17 : 13	○16 : 7		×17 : 18	×8 : 20	×10 : 21
ニュージーランド	○19 : 15	×12 : 19	○18 : 17		×7 : 20	○10 : 9
韓国	○16 : 15	○18 : 4	○20 : 8	○20 : 7		×3 : 13
日本	○15 : 10	○13 : 4	○21 : 10	×9 : 10	○13 : 3	
勝ち点	15	9	9	6	3	3
総得点		69	79		47	37
総失点		52	68		77	71
得失点差		+17	+11		-30	-34
順位	1位	2位	3位	4位	5位	6位

\* 結果的には最下位となったが、初めて対戦する欧米の強豪国に対して善戦した。

ニュージーランドに対しては終始ロングジャックで相手を攻めて、勝ち切った。

今回、銀メダルを獲得した南アフリカにも、前半はロングジャックで相手をリードしたが、その後

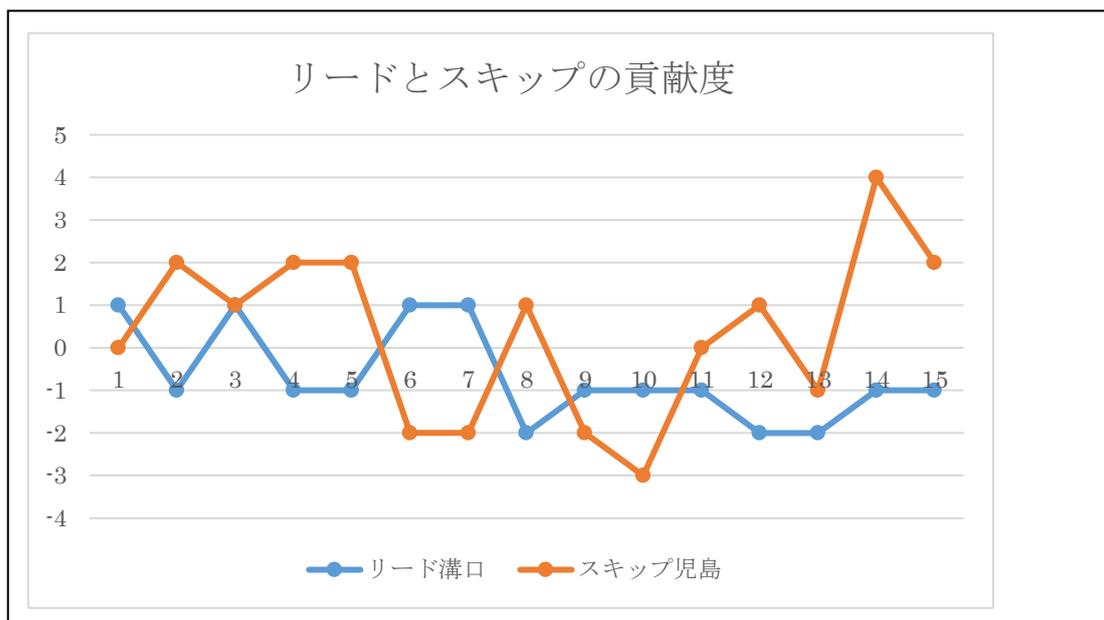
相手が  
ショット  
ツッ切  
えら  
ーラ  
のに  
グ  
ン  
す  
離  
調



手が  
ヨー  
ジャ  
ック  
に  
り替  
てか  
は、オ  
スト  
リア  
非常  
軽い  
リー  
に対  
する  
距  
感の  
整に

日本チームが悩まされる結果となり、ドロワーが決まらなくなってしまった。後半になって、ドロワーでは勝てないのでドライブで対応することに切り替えてから少し持ち直したが、時すでに遅かった。ショット数の推移グラフなどを次ページに示す。

1 エンドから 5 エンドはロングジャックで日本が相手をシャットアウトし 6 : 0 まで行ったが、ショートジャックになった 6 エンド目から 8 エンド続けて相手に取られ逆転されてしまった。  
 14. 15 エンドはドライブショット使用で勝てたが、時すでに遅く 5 点差で負けた。



リードは、1 エンドから 7 エンドまでは、相手に対してプラス、マイナス 1 ショットで推移し、スキップも好調であったが、6, 7 エンド目でスキップが相手にコンバージョンを許し、8 エンド目からはリードもずっと相手にショットを取られるようになってしまった。スキップもこれをドローでひっくり返すことができないまま、最後の 14, 15 エンド目で相手のショットをドライブで飛ばして逆転をはかる戦術を取るようにしてショットが取れるようになったが、時すでに遅かった。合計のショット数を数えると、リードは相手のリードに対して 10 ショット負けており、スキップは相手のスキップより 5 ショット勝ったが、差し引きではマイナス 5 ショットの負けとなった。

以上

**2023 年度 Champion of Champions 大会に参加して**

**小山 潤 (LC 京都クラブ)**

今回、初めて World Bowls Singles Champion of Champions に参加しました。  
 シングルスプレイヤーとしては、2016 年の World Indoor Singles@Warilla、今年 2 月の Asian Championship に続き 3 度目の国際大会への挑戦になりました。

前の二大会でも、決して自分自身のパフォーマンスは悪くはなかったのですが、各国の代表選手に比

べるとドロウの安定感や大事な場面で決める力では劣っていたと感じていました。

どのような環境下でも安定したパフォーマンスを出すために、クラブでの練習量を増やし、大会直前には夏休みを利用して、タイや香港で試合や練習をするなど、より高いレベルで競い合い、普段と異なるグリーンにも適応する準備をして臨みました。

結果としては、3勝4敗でセクション内5位に終わり、目標にしていた決勝トーナメント進出は叶いませんでした。

最終戦を残し、セクション内で3位につけ、最後のキプロス戦に3-0で勝てば、セクション2位で決勝トーナメントに上がれるチャンスが残されていましたが、逆に結果を求める余り、良いパフォーマンスを出すことが出来ませんでした。これも自分の弱さだと受け止めるしかありませんでした。

今大会を通して、気付いたことが2つあります。

1つ目は、ゲームの入り方が大事だということです。

今大会のフォーマットは、5エンド×3セットマッチでした。

よくある21点先取制なら、序盤に先制を許しても、中盤で追いつき、勝ち切れるなどの展開がありえますが、5エンドと言う超短期決戦では、各セットで最初の2エンドをどちらが取るかで、その後の戦略が大きく変わることになります。

普段より速く、風向きも気まぐれに変わるロビーナのグリーンで、ラインを探しているうちに先制されるような展開が実際にありました。

その後に持ち直したとしても、序盤の点差を残りのエンドで捕えるのは容易ではなく、必然的に無理なショットを選択しなければならない状況となります。

当然のことながら、4球あるうちの初球から丁寧にドロウすることは大事ですが、風向きや相手のハンドを見るために、あえて後攻を選択するなどの工夫も必要であったなと思います。

2つ目は、自分のスタイルを持つということです。

スタイルとは、自分の強みを生かした戦い方を意味しています。

特筆すべきは、2試合目のトルコ戦です。

相手は2016年にindoorで対戦したことのある選手でした。

その時から戦い方は変わらず、彼がマットを持てば最大までマットアップをし、毎エンドほぼ最短でプレイしてきます。

私もショートゲームは想定済みだったので、怯まず付き合おうと思っていたのですが、前述の通り、速いグリーンと風にボウルが止まらず、なかなかヘッドを作れない状況。一方彼は、自信を持って安定したドロウを入れて来ます。

私が先にジャックに寄せても、積極的にドライブを仕掛け、ショットを飛ばしたり、ジャックをディッチに入れるなど、その精度は7年前対戦した時よりも向上しており、終始自信を持って自分のゲームをしている印象でした。

この展開で序盤から主導権を握られ、苦しい展開となりました。

私も粘りを見せ、1セットオールで迎えた第3セット。そのセットも同点で最終第5エンドを迎え、このエンドを取った方が勝ちとなる展開となりました。

彼は最後までマットアップのショートゲームを貫き、私が1アップで迎えた相手の最終投球。彼は迷いなくドライブを放ち、そのままジャックと共にディッチに入れられ、黒星をつけられてしまいました。

短所を克服することはとても大事なことです、自分の長所を磨き上げ、誰にも負けない自分のスペシャリティを作ることもまた、とても大切だと感じました。それがあつて、自分自身のメンタリティを支えることにも繋がります。

世界選手権大会もそうですが、各国チャンピオンが集う今大会でも、各国代表選手の最後まで諦めない、粘りのプレイを対戦して肌で感じました。

それはまさに、国を代表して戦うことの責任と重みであり、一つとして、楽に勝てる試合はありませんでした。私も同様に、日本のシングルスチャンピオンとして、日本の価値を下げてはいけないという一心で戦いました。

技術的な課題は練習で克服し、国際大会でメダルを取れる、日本を勝たせることのできるプレイヤーになって、またこの舞台に帰って来たいと思います。

大会期間中、共に戦い、夜は美味しい料理を振る舞ってくれた松岡さん、コーチとして早朝から毎日サポートして頂いた江村夫妻には、本当にお世話になりました。改めて厚く御礼申し上げます。

また、日本から熱い応援をしてくださった BOWLS JAPAN の皆様、LC 京都の仲間、そして、変わらず側でサポートしてくれる妻の裕木恵に、心から感謝しています。

私たちの頑張りが、ローンボウルズという素晴らしいスポーツの拡がりに、成長に、繋がるとを信じています。

これからも変わらぬ応援を賜りますよう、よろしく願い致します。 以上

.....

以下、『ベンチコーチ、江村健一氏の日線から』のコメントです。

今大会は明らかに小山さんが準決勝に進めていても不思議ではない大会でした。個人的にはアイルランド代表のアダムはちょっと飛びぬけていると思ってましたが、その他の各国代表は拮抗していたものの、小山さんの実力はその中では上の方ではないかと感じました。

5 エンドx3 セットという試合形式もあつて、誰にでも勝つチャンスがあつただけに、誰にも難しかったということが言えると思います。

オーストラリアでの大会ということで、地元オーストラリアやそれに近いニュージーランドなんかは圧倒的に有利かと思ったのですが、予想外に世界各国の代表がそれなりにオーストラリアのグリーンに対応していたという気がします。

環境は変わつても、目標の位置に向かってボウルが進んでいくことを期待して特定の向きに特定の強さでボウルを転がし、その期待と結果との差の調整を繰り返すというゲームの性質は、意外とどんな環境でも変わらないものなのかもしれません。

いいグリーンに恵まれない日本は不利なのではと思っていましたが、意外とそんなことはないのではと感じました。ただ、オーストラリアやその他の国の異なるグリーンを何度か経験し、そのイメージを持

ちつつ練習するという事は重要でしょう。

短い練習期間で新しい環境に適応させる能力というのが重要だということはいえるでしょう。同じ大会でもグリーンや時間帯の違いとかによって環境の変化は激しいので、それへの速い適応というのも重要でしょう。

これは小山さんの強い部分だと思うのですが、メンタルというのが重要だと感じました。どの国のプレーヤーも自信たっぷりでしたが、フィジーの選手が楽しそうに伸び伸びと試合をしていたのが印象的でした。ひょっとしたらそれが彼が2位通過した一因かもしれません。

.....

【試合結果】( )内は各セットのスコア

- ①フィジー戦 ○2-1 (3-5, 8-3, 5-3)
- ②トルコ戦 ●1-2 (1-6, 11-0, 3-5)
- ③スウェーデン戦 ○2.5-0.5 (4-2, 4-4, 9-3)
- ④フォークランド諸島戦 ●0.5-2.5 (2-3, 2-3, 4-4)
- ⑤ニウエ戦 ○2-1 (2-7, 5-4, 10-2)
- ⑥アイルランド戦 ●0-3 (3-4, 1-7, 3-6)
- ⑦キプロス戦 ●0-3 (4-5, 0-7, 5-6)

最終結果：3勝4敗 セクション内8か国中5位で決勝トーナメント進出はならず、でした。

### 松岡 緑 (オーストラリア・クラブ)

9月12日から16日まで、オーストラリアゴールドコースト、ロビーナボウリングクラブで行われた世界チャンピオン大会に参加した。

女子の出場国は25カ国で予選は3セクション(8、9、8カ国)、決勝ラウンド進出は各セクション2位までと3位の中から上位2カ国となった。私のセクションの組み合わせは、下記の8カ国でフォークランド以外はどれも強豪でかなり厳しい試合を予想していた。

ガンジー、ウエールズ、フォークランド、香港、シンガポール、南アフリカ、イングランド、日本

現在公式な国別のランキングはないが、ガンジーの Lucy Beers は元インドアおよびアウトドアの世界チャンピオン、イングランド、ウエールズは世界大会で常にトップに食い込む強豪、南アフリカは世界大会上位の常連、シンガポール、香港はアジアでここ数年急成長を遂げている国々と私にとっては全力でぶつかっていかなければならない相手達であった。

会場には3つのグリーンがあり、それぞれのグリーンが0.5から1秒くらいのペースの違いがある程度でよく整備されていた。ただし天候や時間によって差があり、実際にプレイした時は13-16秒で

それぞれかなり違うスピードであった。

また、建物や駐車場の場の位置関係でグリーンによって風向きや強さが異なり、午後になると風がさらに強くなり、時には30-40 km/Hの風によって随分ボウルが流されてしまう場面が多かった。

参加選手は、ほとんどが世界選手権大会からの引き続きの参加で、準備は十分な状態で試合に臨んでいた。したがって私も含めてコンディションはみんな良いように思われた。

今回の試合は新しい試みで（テスト期間）5エンド、3セット、タイブレーク1エンドと短い試合になっており、1ショットを争い、結果がどちらに転んでもおかしくない場面が多く見られた。

今回はリンクサイドコーチとして江村裕子さんに入ってもらい、記録、ショットセレクションの相談を行った。レポート内に江村コーチからのコメントも付記する。

予選試合の総括：

私の試合は3パターンに分けられる。

1) 勝った試合

イングランド 2-1

ウエールズ 2-1 (第1、2セットとも引き分け)

フォークランド 2-1

ドロー中心の試合展開で相手にプレッシャーをかけながら試合展開して勝った。

2) 僅差で負けた試合

香港 1-2

1-1で3セット目の最後のエンドで香港に対して私のボウルはジャック周りに3点入っており、そのままだったら勝ちで抜けた。またジャックがTにあり、相手のドライブによってジャックがリンクを外れたとしてもTにジャックが戻されるので、それでも勝ちとなる有利な展開だった。しかし相手の最後のドライブ投球でジャックのみをディッチの右端ギリギリに持っていかれ、相手の後ろにあるボウルもカウントされて結局3セット目を落とした。

シンガポール 1-2

1-1で3セット目の最後のエンドで、相手が2球入っていたところに、ドライブでジャックをディッチに落とす。ディッチの手前1Mくらいの間へのドローで勝ちが決まる最後の投球で、ディッチギリギリにドローを決めたと思ったが（2秒くらいボウルがグリーンの上に乗っていた）、追い風のせいもあったかディッチへ落ちてしまった。シンガポール相手にも最後の投球で勝敗が決まった。

3) 負けた試合

ガンジー 1-2

スタートは私のドローが決まっていたために難なく1セットは取ったものの、相手の Lucy は2セット目からきっちり合わせてきて、安定したプレイを見せさすがに追いつけなかった。

### 南アフリカ 0-3

第1セット第1エンドで最初のボウルを私がジャックにつけるとすぐさまドライブでそのボウルを弾くという全く違ったスタイルでプレイするプレイヤーだった。その後もこちらのボウルの内側に入る攻撃的なプレイが多く、スタイルの違いで混乱させられた部分が多かった。残念ながらセットは取れなかったが、僅差で逃したセットばかりなので、むしろ相手のスタイルにやられた感じがした。

上記のように、どの試合も僅差で勝敗が決まる場合がほとんどだった。それは、セットプレイということもあり、かなり潰し合いの要素が大きい試合展開であった。

残念ながら予選通過にはならなかったが、2)の香港戦、シンガポール戦で紙一重の展開だったこともあり、実力的には世界相手にそんなに遠くはないと感じている。

(江村：グリーンは松岡が得意とするスピードであり、同組に準優勝したガンジー、3位のシンガポールがあり、イングランド、ウェールズといった強豪に対しての善戦ただけに絶好のメダルチャンスを逃した感がある。)

### 今後の課題

- 勝ちを逃さないためには、つめの甘さを克服

(江村：初球が高い確率で良いショットが入っているのに2球目がショートしがちな点、1球入っているのにあと1球入れられない機会損失がある)

- 風の日のショットの安定性
- ドローの Consistency

(江村：ショットの選択は的確でショット自体も高確率で正確だが、上位メダリストの USA、ガンジー、マレーシアとの差は、その正確なショットを続けられるかどうかという Consistency で違いが出た)

- メンタルの強化

(江村：唯一の3セット全敗となった対南アフリカ戦では僅差負けであり、勝てない相手ではなかった。当日第1試合のシンガポール戦から4時間以上の時間が空いたために緊張が切れてしまった)。

### 江村総括：

結果は4-6位同率勝ち点の6位で一見残念だが、内容的には対シンガポールと香港で起きた「相手の最後のギャンブルドライブが入らなければ勝った」の痛恨の2試合があり限りなく予選2位に近い接戦だった。

これまで何年も密度の高い訓練を定期的に行ってきた結果として、現在の高いパフォーマンスがあるの

は確か。今回のように得意なグリーンならトップ10に次ぐレベルにある。これを引き上げ強豪と肩を並べるためにはさらなるいっそうの訓練が必要。

使用ボウルに関してはグリーンは連日昼頃から突風を伴うトリッキーな強風となり、狙ったラインを乱されて苦勞した。その中で **Henselite XG** を使用する相手選手のラインがより安定しており、ショットをとりやすかった印象がある。

以上